



ラオス・クリーン農業開発プロジェクト

クリーン農業ニュースレター

第18号 2021年9月発行



このプロジェクトは5年間（2017-2022）の JICA による技術協力プロジェクトで、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、サイヤブリー県及びシェンクワン県の4つのパイロット県を対象としています。プロジェクトは、パイロット県における市場ニーズに基づくクリーン農業（有機農業及び GAP）の推進を目的として活動しています。

最近のトピックス

1. 誘引捕殺トラップ:「魔法の黄色いバケツ」の製造・設置、及び「黄色粘着シート」の設置について On the Job Training (OJT) を実施。

9月9日（木）にカウンターパート機関である農業局クリーン農業基準センター（CASC）の圃場内にて、同職員を対象に誘引捕殺トラップ:「魔法の黄色いバケツ」並びに「黄色粘着シート」の製造・設置について、OJT を実施しました。



（写真）「魔法の黄色いバケツ」に原材料を混ぜ込んでいく CASC 職員

ラオスの首都ビエンチャンでは年間平均最低気温が 16℃～24℃、年間平均最高気温が 28℃～34℃と一年を通じて気温が高いため、害虫の繁殖にとっては非常に良い環境となっております。また、台風などが発生しないため自然に個体群密度を低下させる機会がありません。その為、農薬を使用せず有機農業を行う生産農家にとっては害虫被害が深刻な問題となっております。

（写真）アブラムシが発生するインゲンの施設に「魔法の黄色いバケツ」を設置する CASC 職員



今回実施した OJT は現代農業（農文協）でも紹介された JA 糸島が推奨する「魔法の黄色いバケツ」。ラオスでは黄色いバケツが手に入りづらいため、黄

色いペンキで塗装してから実施しました。ヨーグルト・蜂蜜・ごま油を水に混ぜて設置するだけという非常にお手軽な方法です。また、ベトナムから輸入されている市販の「黄色粘着シート」も紹介しました。



（写真）市販の「黄色粘着シート」も同時に設置し、効果を検証

今回学んだ栽培技術については、CASC を通じて Organic Agriculture (OA) グループ へ OJT を実施する予定であり、OA Technical Manual として CASC の YouTube チャンネルにて配信する予定となっております。

2. 「農家グループの組織構造とマネジメントの改善」にかかる活動の実施

8月25日（水）にカウンターパート機関である CASC、首都ビエンチャン農林局 (PAFO)、そして首都ビエンチャンの6つの郡農林事務所 (DAFO) と共に「農家グループの組織構造とマネジメントの改善」に係る合同キックオフミーティングを開催し、OA グループが有する組織課題の抽出及び議論を行いました。また、9月16日（木）に CASC と PAFO による今後の具体的実施事項について協議を行いました。

抽出された組織課題は、①各個人で記載する栽培計画や投入有機資材（有機肥料・有機忌避剤等）等の栽培履歴に係る書類作成不備の発生、②各 OA グループ内で実施される栽培履歴書類に基づく内部監査（Internal Checking System : ICS）時の監査

ポイント及び改善指摘事項について不明確な点などです(①と②の改善は、有機認証(OA Certificate)の更新時に必要)。



(写真) CASC、PAFO、6郡のDAFOによる合同キックオフミーティング(8月25日)

また各個人や企業がOA Certificateを取得・更新する際は農業局基準課(Standards Division)へ申請書類を提出しますが、申請の流れ、申請書の記入方法、更新手続き等が明確でなく一般へ周知されていないため、OA Certificateを取得・更新する際の障壁となっています。



(写真) CASCとPAFOによる協議(9月16日)

今後は抽出された組織課題のみならず、Standards Divisionとも連携しOA Certificateの取得・更新に係る「Organic Agriculture(OA) Technical Manual」の作成・配信も行う予定です。

3. サイヤブリ県における洪水被害にあった有機農家への緊急支援

プロジェクト対象県の一つであるサイヤブリ県では23の有機農家が、2021年6月14日の洪水による被害を受けました。被害総額は3.72億Kip(約437.1万円)と見積もられています。



(写真) 8月31日に行われた贈与式の様子

プロジェクトでは被害にあった23の有機農家に対して、カリフラワー、キャベツ、ハクサイ、キュウリ等16種類の野菜の種子を緊急支援することにしました。支援総額は約16百万Kip(約18.8万円)です。これら野菜種子の贈与式は8月31日(月)にサイヤブリ県農林局で行われ、プロジェクトを代表してプロジェクト・マネージャーであり、CASC長であるタビシット・ブンニャーサク氏から有機農家に対して野菜種子が贈与されました。

OA現場からの声

このコーナーでは、対象県で有機農業推進に尽力しているキーパーソンに焦点を当て、発信しています。今号はルアンパバーン県シェンゲン郡ローンオー村のソムミック・サイヤセーン氏を取り上げます。

ソムミック氏は2011年に本格的に有機農業に取り組み始めました。現在有機野菜を栽培している0.3haの圃場を元々は水田として利用していました。有機農業を始めた当初は売り先を探すのに苦労しましたが、現在はOAマーケ



(写真) ソムミック氏夫妻

ットが開設されたことで状況は改善されました。乾季はキュウリ、ニンジン、レタス、サヤエンドウ等を多い日で一日100kg以上出荷します。雨期は乾季に比べると少なくなり、カラシナやコリアンダー等を多い日で20~30kg出荷しています。雨期は害虫も多く、雨よけ栽培を実施しないと野菜の生産は難しいと言います。害虫対策は日々の注意深い観察が必要だと言います。

「他の農家が作らないものを作るようにしています」。昨年の乾季にはニンジンやビートルートを生産しており、将来的にはジャガイモやタマネギも栽培したいと考えています。

